

県遊協

山形県遊技業組合
TEL 023-615-6922
FAX 023-615-6923
Eメール yamagata@zennichiyure.n.or.jp
ホームページ http://www.yamagatayukyo.jp

県理事事△△

7月26日県理事会が開催されました。
6月21日の通常総会において、新役員が決定し、新任された大村正鉉氏が開会に先立ち挨拶をなされました。

理事会では、特に6月27日付けで全日遊連から送付された、「遊技業界における健全化推進に関する声明」の着実な実行・完遂について協議し、次の声明内容を可決しました。

○ 私たちは、全ての「検定機と性能が異なる可能性のあるぱちんこ遊技機」を本年末までに市場から回収・撤去してまいります。

なお、日本遊技機工業組合から本年2月11日及び3月2日に提示された回収対象遊技機については、本年8月末までに市場から回収・撤去してまいります。

○ 私たちは、ファンが身近で手軽に安心して遊技できる環境を整備してまいります。
各ホールにあつては、本年8月末までの撤去をはじめ、12月末までには全て撤去してください。

菅原議長 理事会の状況 大村理事挨拶



パチンコ・パチスロカーニバル終わる

お疲れ様でした

また、来年もご協力をお願いいたします。

1次、2次リストの早期撤去

7月26日の県理事会において、「21世紀の声明の着実な実行・完遂」について可決したことを受け、8月1日付け県遊協発第102号で通知しているところでありますが、さらに全日遊連から8月9日付けで、1次、2次リスト（8月末）の期限を厳守した確実な撤去についての指導要請がありました。

日工組では、各ホールの回収対象遊技機の撤去状況について、全日遊連はもとより、警察庁にも報告しているものと考えられます。

したがって、現在も設置している店舗においては、県理事会、全日遊連の対応や警察の介入も有り得るといった国家公安委員長の答弁等も併せて真摯に受け止めて、期限厳守の確実な撤去をお願いします。

この人紹介

渋谷昭一氏

県遊技業協同組合 副理事長 庄内支部長



和顔愛語の方です。通常総会の時は、毎年司会をお願いしています。優しい語り口で分かりやすく組合員を魅了。

鶴岡・酒田を庄内支部として統合する時には、中心となつて活躍なされ多大なご尽力をいただきました。また、県理事会には、欠かさず出席して下さり組合運営をスムーズにしてください。ありがとうございます。

POKKA吉田氏の講演会

講演日時 平成28年9月20日（火）午後2時
講演場所 山形市香澄町一丁目1番1号
メトロポリタン山形 4階 霞城

演題

今、我々ぱちんこホールが考えるべきこと
プロフィール

遊技機メーカーシンクタンクを経て、2004年からフリー 著書に「ぱちんこがなくなる日」主婦の友社、「ぱちんこが本当になくなる日」扶桑社ほか多数、2016年よりぱちんこ業界紙シークエンス発行人・編集長

最近、同氏が業界紙に掲載した文章を簡単に紹介しますと、京都府内では、特定の遊技客が店内に設置されたぱちんこ遊技機のうち、釘の曲がり大きいと思われるものを写真撮影し、それを警察署に持参して違法行為として申告する事案が連続発生している。行政処分にはならなかったものの島が一時的に閉鎖となる事例が相次いでいるという。当該店舗は島閉鎖の分だけ逸失利益が発生する。警察の現場では、通報があれば対ホールの調査・確認に向かうのは当然で、その中で遊技くぎが13ミリ超え11ミリ未満であった場合、検挙されて書類送検される可能性もあるし、その時、回収対象撤去遊技機を設置していたことにより横暴的な物言いやされる可能性もある。また、個別の遊技くぎ曲げが一連の回収対象遊技機の釘曲げと同一視され、全国のホールにも影響しかねない。ホールは、自店の営業権を守るためにできるだけのことをしておく必要がある。と、述べています。

ぱちんこ業界に鋭いメスを入れ、真実を探求する氏著作の右記の本を読むと歯に衣を着せぬ文章で心引かれます。

是非、ホール・組合員皆様の多数のご参加をお願いいたします。

愛犬

6月21日の通常総会の日に愛犬を亡くされた方がいます。この方とお話する機会があり、愛犬の生前の様子や最後のお別れ（火葬）の時のお話を聞き目頭が熱くなりました。飼い主が散歩に出かけようとすると、病気を患い思うように動けない体にもかかわらず、力を振り絞り必死になって飼い主についてこようとする愛犬だったそうです。また、飼い主の行動が手に取るように分かり、それに応じた対応も出来る愛犬とのことでした。愛犬の飼い主や家族に対する思いは、これまで自分に向けてくれた愛情への感謝で報恩そのものであったのではないのでしょうか。

計り知れない犬と人間の愛と友情、絆の奥深さを感じました。そして、愛犬と最後の別れの時、愛犬に「楽しい時間を過ごさせてもらったこと、本当に心を癒やされたことへの感謝の気持ちで心からありがとう」と、別れの言葉を述べたことでした。

一〇数年愛犬と過ごした日々は、飼い主は勿論のこと、家族全員の目に焼き付き一生忘れられないこととでしょう。

この話を聞き犬と人間の互いの思いやりは尊いものであり、犬の死と人間の死の重さは簡単な言葉では言い表せないようにも感じました。現代社会の希薄な人間関係に、ふと立ち止まらせて考えさせられるものがありました。



ブラジル リオデジャネイロでオリンピックが開催されました。連日日本人選手の大活躍が報道され、史上最多のメダル41個の快挙を成し遂げました。

この背景には、指導者と選手との日々の並々ならぬ努力の積み重ねと相互の信頼関係に基づくもので、強い絆で結ばれていたことにほかなりません。組合員の皆様、こういう大変なときこそ組合員一同一致団結して相互の絆をより一層深めようではありませんか。よろしくをお願いいたします。